

日文版『問題と研究』執筆要綱

※ 台湾・行政院国家科学委员会社会科学研究センター資料庫基準を参考に当センターが採用している書式です。投稿の際にはこちらを遵守ください。

一、構成

- (一) 論文題名
- (二) 筆者名、現職。
- (三) 要約（日文約 400 字以内、中国語 300 字以内、英語 200 ワード以内。）
- (四) キーワード：4～5 語。
- (五) 本文：約 1 万 2 千字～1 万 8 千字程度。（脚注、参考文献を含む。）
- (六) 脚注：各ページ下。注番号は、全編通し番号。なお、注番号と、句読点が重なっている箇所では、注番号を句読点の前にふる。
- (七) 参考文献：本文中に引用した文献（図表の出典を含む）を脚注にて明記し、脚注に掲載した引用文献を参考文献として日文、中国語、英語の順にて本文末に列記。（**脚注に記載した文献のみ**。書式は、三、参考文献を参照。）
- (八) 筆者紹介：姓名、姓名ローマ字、学歴、職歴、主要研究分野、主要著作（出版社、出版年）。
- (九) 使用言語及び必要項目
 1. 論文本文の基本言語は日文とする。中国語の論文の投稿は、審査を通過し、掲載が確定した後に、自身にて日文に翻訳するか、編集部へ翻訳補助を申請する。（申請状況により、暫定的に無料にて翻訳サービスを提供。）
 2. 本誌掲載の論文はすべて日文にて掲載し、論文本文以外の各項目については、中国語と英語も併せて掲載する。投稿の際、以下の資料も一緒に添付してください。（翻訳による誤差（誤訳）を避けるため、すべての資料を本人にて用意するようお勧めします。万が一、困難な際は、以下の表を参考に、随時編集部にご相談ください。●＝必須、◎＝二者択一、○＝要望により、編集部が協力）

	中国語	日文	英文
論文題目	○	●	●
作者氏名	○	●	●
作者現職/役職	○	●	●
キーワード	○	●	●
要約	◎	●	◎
本文	◎	◎	

二、本文規格

- (一) 章たて：本文は一（第一章）、「はじめに」から始まり、最後の章を「おわりに」、または「結論」とする。

大見出し（章）漢数字：一、二、三…。

中見出し（節）はアラビア数字全角：1、2…。

小見出し（項）はアラビア数字（ ）：（1）、（2）、（3）…。

続いて、ローマ数字：I、II…、i、ii…、(i)、(ii)…、a、b、(a)、(b) …。

(二) 引用：原文を引用する場合は、「」（カギ括弧）にて引用を表記。引用する文章が数行に及ぶ場合は、段落を下げて引用し、前後に一行づつスペースを空ける。

(三) 外国語の固有名詞は片仮名書きとし、（ ）を付して原語を添えることが望ましい。ただし、一般に周知のものは片仮名書きのみでよい。

(四) 略語を使用する場合は、普通名詞、固有名詞にかかわらず原語・フルスペルを括弧書き記載する。一般に周知でない略語を使用する場合は、最初に使用した個所で原語を（ ）で付記する。

例：两岸経済協力枠組み協議（ECFA：Economic Cooperation Framework Agreement）。

(五) 記号：句読点は、全角読点”、”および全角句点”。”を用いる。書名・雑誌名は『』、かぎ括弧内の括弧、論文名等は「」を用いる。また、単語が並列的に並べられている場合は読点”、”ではなくナカグロ”・”を用いる。

(六) 数字：数量、序数を表す数字は半角アラビア数字を使用し、漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を使用する。年号は、原則、西暦表記し、本年、昨年などの表記を用いる場合、本年（2010年）と具体的な年数も記載する。

例：アラビア数字の場合：10m、2010年、56歳。

漢数字の場合：三角形、数百例、三条ねじ。

(七) 図表：図と表のそれぞれ上方（左寄せ）に、別々に通し番号を付け、図 1 ○○○○、表 5 □□□□のように図表見出しを表記する。また図表下に必ず資料の出典を明記し、注釈（説明）がある場合は、（注）（出典）の順で明記する。

(八) 書式：MSWord、ページ設定：40文字*40行、横書き、各ページの下・中央にページ番号。

論文題目	MS ゴシック フォント：12 中央・太字
本文・図表見出し	MS ゴシック フォント：10.5 左寄せ・太字
本文	MS 明朝 フォント：10.5
参考文献・脚注・図表出典	MS 明朝 フォント：10
英数字	Times New Roman

三、脚注及び参考文献書式

一、書籍

(1) 日文书籍：作者姓名『書名』（出版社名、出版年）、xページ（又はx~xxページ）。

【例】

榊原英資『日本と世界が震えた日：サイバー資本主義の成立』（中央公論社、2000年）、25ページ。

(2) 中文書籍：作者姓名『書名』（出版地：出版者、出版年）、頁x 或頁x~x。
<初版無須註明版別。>

【例】

李英明『中共研究方法論』（台北：揚智文化事業公司、1996年）、頁97。

賴輝亮、郝瑞廷主編『中國共青團工作全書』（北京：紅旗出版社、1996年）、頁159~160。

- (3) 英文書籍：Author(s)' full name, *Complete Title of the Book*, edition (if not original), Number of volumes (Place of publication: Publisher, Year of publication), Volumenumber (if any), p. x (or pp. x~xx).

【例】

Shelly Rigger, *Politics in Taiwan: Voting for Democracy* (New York: Routledge, 1999), p. 18

- (4) 如引用全書時，可註明全書起訖頁數或省略頁數。

二、學術雜誌論文

- (1) 日文雜誌論文：作者姓名「論文名」『雜誌名』卷數號數(出版年月)、xページ(またはx~x ページ)。

【例】

小川英治「世界金融危機とアジアにおける通貨・金融協力」『国際問題』No.582、6月号(2009年6月)。

- (2) 日文編書章節：作者姓名「論文名」編者『書名』(出版社、出版年)、xページ(またはx~xページ)。

【例】

吉田和夫「国際政治体制の変遷」安場保吉・江崎光男編『経済発展論』(創文社、1985年)、40~65ページ。

- (3) 中文雜誌論文：作者姓名「篇名」『刊物名稱』第x卷第x期(年月)、頁x或頁x~xx。或作者姓名「篇名」『期刊名』(出版地)、第x卷第x期(出版年)、頁x(或頁x~xx)。<台灣出版之期刊無須註明出版地，但若期刊名稱相同者，仍須註明出版地。>

【例】

寇健文「政治繼承與共黨國家政權結構穩定性的比較研究」『問題與研究』第39卷第3期(2000年3月)、頁59。

羅成法「新的財政體制改革對廣東的影響」『黨校論壇』(北京)、總第62期(1994年1月)、頁23。

- (4) 中文編書章節：作者姓名「篇名」編者『書名』版別(出版地：出版社、出版年份)、頁x(或頁x~xx)。<初版無須註明版別>

【例】

陳婕、李秀山「回顧美國終究的典範」朱雲漢、王紹光、趙全勝主編『華人社會政治學本土化研究的理論與實踐』(台北：桂冠圖書公司、2002年)、頁129~130。

- (5) 英文雜誌論文： Author's full name, "Title of the Article," *Name of the Periodical*, Vol. X, No. X(Month/Quarter Year), p. x(or pp. x~xx).

【例】

Jih-wen Lin, "Two-Level Games Between Rival Regimes: Domestic Politics and the Remaking

of Cross-Strait Relations,” *Issues & Studies*, Vol. 36, No. 6 (November/December 2000), pp.1~26.

Andrew J. Nathan, “Human Rights in Chinese Foreign Policy,” *The China Quarterly*, No.139(September 1994), pp. 622~643.

- (6) 英文編書章節：Author’s full name, “Chapter Title,” in Editor/Editors’ full name(s)ed(s)., *Complete Title of the Book*(Place of the publication: Publisher, Year of publication), Volumenumber (if any), p. x (or pp. x~xx).

【例】

Randall L. Schweller, “Managing the Rise of Great Powers: History and Theory,” in Alastair Iain Johnston and Robert S. Ross eds., *Engaging China: The Management of an Emerging Power* (London: Routledge, 1999), pp. 1~31.

三、會議（フォーラム、シンポジウム）論文

- (1) 日文會議論文：作者姓名「論文名」會議・フォーラム名 発表（開催地：主催機関、開催日時）、x ページ（またはx~x ページ）。

【例】曾根泰教「政権交代における権力と政策」現代日本と中国大陸シンポジウム発表（台北：国立政治大学現代日本研究センター、2010年9月18~19日）。

- (2) 中文會議論文：作者姓名「論文名」發表於xxx 研討會（舉辦地點：主辦單位、舉辦時間）、頁x（或頁x~xx）。

【例】吳玉山「中國大陸經濟改革總體策略之研究」、發表於中國大陸研究方法與成果學術研討會（台北：政大國關中心暨中國大陸研究中心主辦、2003年4月1~2日）、頁5。

- (3) 英文會議論文：Author’s full name, “Paper Title,” presented for Complete Title of the Conference (Place of conference: Conference organizer, Date of conference), p.x (or pp. x~xx).

【例】Jurgen Domes, “Intra-the Party Conflict and the Development of Communist Rule in China,” presented for 4th Sino-American Conference on Mainland China (Taipei: Institute of International Relations, December 12-15, 1974), p. 2.

四、未公刊の学位論文

- (1) 日文学位論文：作者姓名「論文名」xx大学修士（または博士）論文（学位授与年度）、x ページ（またはx~x ページ）。

【例】井上哲治「数量関係の明示と具体的操作による表象が問題解決に及ぼす影響」上越教育大学大学院学校教育研究科修士論文（1999年）、17ページ。

- (2) 中文学位論文：作者姓名「論文名」學校系所碩士（或博士）論文（畢業年份）頁x（或頁x~xx）。

【例】張莉娟「我國民辦高校發展過程中的規章制度研究—北京美國英語語言學院案例分析」

北京大學教育學院碩士論文（2003 年）、頁58~59。

- (3) 英文學位論文：Author's full name, "Complete Title of Thesis," (Ph.D. dissertation/Mater's thesis, University Title, Year of Gradation), p.x (or pp. x~xx).

【例】Chen-yuan Tung, "China's Economic Leverage and Taiwan's Security Concerns with Respect to Cross-Strait Economic Relations," (Ph. D. dissertation, Johns Hopkins University, 2002), p. 25.

五、新聞・非學術的雜誌

- (1) 日文新聞：作者姓名「記事の題目」『新聞名』発行年月日、x面。

【例】永滝文恵「MBAレポート:ビジネス文化の違いー英国」『日本経済新聞(夕刊)』2001年3月12日、13面。

- (2) 日文雑誌：作者姓名「記事名」『雑誌名』発行年月日、xページ(またはx~xページ)。

【例】野中尚人「『自民党型戦後合意』は崩壊した」『アステイオン』2009年(71号)、16~35ページ。

- (3) 中文新聞：作者姓名「篇名」『報紙名』（出版地）、年月日、第x版。<一般性新聞報導可省略作者和「篇名」。台灣出版之報紙無須註明出版地。>

【例】宋任窮「按照革命化年輕化知識化專業化的方針建設好幹部隊伍」『人民日報』（北京）、1982年10月2日、第2版。
『中國時報』2003年2月15日、第11版。

- (4) 中文雜誌：作者姓名「篇名」『雜誌名』（出版地）、年月日、頁x（或頁x~xx）。<無須註明第X卷第X期。台灣出版之雜誌無須註明出版地。>

【例】羅冰「喬石出局與十五大選舉內幕」『爭鳴』（香港）、1997年10月、頁8。

- (5) 英文新聞：Author's full name, "Title of the Report," *Title of the Newspaper*, Date, p.x (or pp. x~xx).

【例】Guido Tabellini, "Europe Faces Fundamental Dilemma," *Taipei Times*, March 2, 2002, p. 9.
John Pomfret, "China Easing Way for Bush Visit; Invitations to Taiwanese Officials Among Good Faith Efforts," *Washington Post*, January 25, 2002, p. A21.

- (6) 英文雜誌：Author's full name, "Title of the Report," *Title of the Magazine*, Date, p.x (or pp. x~xx).
【No volume and issue numbers.】

【例】"Suzhou: The New Frontier," *Far Eastern Economic Review*, December 6, 2001, pp. 38~41.
Mark R. Mitchell, "The Ties That Won't Bind," *Time*, December 10, 2001, p. 43.

六、翻譯作品

- (1) 日文翻譯書：原作者姓名(姓先名後、漢字又はカタカナ)『書名』翻譯者名訳、(出版社名、出版

年)、xページ(またはx~xページ)。

【例】ブルデュー, P.・パスロン, J.-C.『再生産論 教育・社会・文化』宮島喬訳、(藤原書房、1991年)。

- (2) 中文翻訳書：譯者譯、Author(s)' full name 著『書名』版別（出版地： 出版社、出版年份）頁x（或頁x~xx）。<初版無須註明版別。>

【例】朱雲漢、丁庭宇譯、Richard W. Wilson 著『中國兒童眼中的政治：政治社會化的研究』（台北：桂冠圖書公司、1981年）、頁15。

- (3) 英文翻訳書：Author(s)' full name, *Complete Title of the Book*, trans. by Translator(s)' full name, edition (if not the original), Number of volumes(Place of publication:Publisher, Year of publication), Volume number (if any), p.x (or pp. x~xx).

【例】Jacques Derria, *Of Grammatology*, trans. by Gayatri Chakravorty Spivak, corrected edition (Baltimore: Johns Hopkins University, 1997), p.127.

七、ホームページ資料

- (1) ホームページ版新聞の報道の引用は<面>の明記は必要ないが、ホームページアドレスを明記する。その他の形式は他と同様。

【例】*New York Times*, December

18,2003,<http://www.nytimes.com/2003/12/18/international/18FRAN.html?th>.

『聯合報』2003年12月18日、<http://udn.com/NEWS/WORLD/WOR1/1741975.shtml>。

- (2) 電子ニュース・雑誌・評論文・学術雑誌論文等を引用する場合は、ページ数の後にホームページアドレスを明記する。その他の形式は他と同様、ページ数のないものは省略可。

【例】Willy Lam, “Hu and Jiang Struggle for Primacy,” *China Brief*, July 1, 2003, pp.2~3,
http://www.jamestown.org/print/ewe_003_013_001.pdf.

- (3) 機関のホームページ上の内容を直接引用する場合は、文章タイトル、機関（ホームページ）名称とホームページアドレスを明記する。

【例】『中国平和台頭論』の誕生と発展」人民網(日文版)、2004年5月11日、

<http://j.peopledaily.com.cn/cehua/20040510/02.htm>。

「中国、露骨な野心『太平洋分割管理』提案」『産経新聞』(電子版)、2008年3月12日、

<http://sankei.jp.msn.com/world/america/080312/amr0803122304014-n1.htm>。

「1992年中央民族工作會議的召開」中共中央統一戰線工作部、

<http://www.zytzb.cn/zytzbwz/theory/lishi/lishi109.htm>。

八、同一文献の二回目以後の引用

- (1) 作者姓名『書名』（または「文章名」）、xページ（またはx~xxページ）。
- (2) 引用箇所が同じ場合：作者姓名、前掲書（前掲論文）、(xページ(またはx~xxページ))。
- (3) 直前の引用：同上、xページ。
- (4) 日文・中文・英文文献の二回目以後の引用原則は同様とする。

- 【例】陳婕、李秀山「回顧美國中國研究的典範」、頁134。
羅成法、前引文、頁23。
李英明『中共研究方法論』、頁97。
賴輝亮、郝瑞庭主編、前引書、頁59~60。
Nathan, “Human Rights in Chinese Foreign Policy,” p. 625.
Rigger, *Politics in Taiwan: Voting for Democracy*, p. 18.

九、全ての引用は、出所詳細を明記

他の書籍または論文からの引用は脚注に明記し、また孫引きは不可とする。

十、参考文献

投稿原稿には、各ページ下に上述の脚注書式を参考とするほか、参考文献を本文の後に明記する。

- (1)参考文献の書式は、原則として第一回目に引用した際の脚注の書式と同じとし、書籍と会議論文及び修士・博士論文のみ、ページ数を明記しない。
- (2)全ての文献は、日文、中文、英文、その他の言語の順に並べる。
- (3)日文著作は作者姓の五十音順、中文著作は作者姓の総画数順、英文著作は**作者名を姓・名の順に記し**、アルファベット順に並べる。
- (4)編集書籍は参考文献に列記する際は引用した章・節（論文）の作者名により並べる。
- (5)翻訳著作は翻訳後の言語に分類し、日文は原作者の姓の五十音順、中文は訳者の姓の総画数順、英文は原作者の姓のアルファベット順に並べる。
- (6)同一著者の多くの著作を引用した場合は、出版の新しい順に並べる。

【例】

<参考文献>

- 「中国、露骨な野心『太平洋分割管理』提案」『産経新聞』(電子版)、2008年3月12日、
<http://sankei.jp.msn.com/world/america/080312/amr0803122304014-n1.htm>。
『中国平和台頭論』の誕生と発展」人民網(日文版)、2004年5月11日、
<http://j.peopledaily.com.cn/cehua/20040510/02.htm>。
井上哲治「数量関係の明示と具体的操作による表象が問題解決に及ぼす影響」上越教育大学大学院学校教育研究科修士論文(1999年)、17ページ。
小川英治「世界金融危機とアジアにおける通貨・金融協力」『国際問題』No.582、6月号(2009年6月)。
榊原英資『日本と世界が震えた日:サイバー資本主義の成立』(中央公論社、2000年)、25ページ。
曾根泰教「政権交代における権力と政策」現代日本と中国大陸シンポジウム発表(台北:国立政治大学現代日本研究センター、2010年9月18~19日)。
永滝文恵「MBAレポート:ビジネス文化の違いー英国」『日本経済新聞(夕刊)』2001年3月12日、13面。
野中尚人『自民党型戦後合意』は崩壊した』『アステイオン』2009年(71号)、16~35ページ。
ブルデュー, P.・パスロン, J.-C.『再生産論 教育・社会・文化』宮島喬訳、(藤原書房、1991年)。
吉田和夫「国際政治体制の変遷」安場保吉・江崎光男編『経済発展論』(創文社、1985年)、40~65ページ。

- 「1992年中央民族工作會議的召開」中共中央統一戰線工作部、
<http://www.zyztb.cn/zyztbwz/theory/lishi/lishi109.htm>。
- 『中國時報』2003年2月15日、第11版。
- 羅冰「喬石出局與十五大選舉內幕」『爭鳴』（香港）、1997年10月、頁8。
- 『聯合報』2003年12月18日、<http://udn.com/NEWS/WORLD/WOR1/1741975.shtml>。
- 朱雲漢·丁庭宇譯、Richard W. Wilson 著『中國兒童眼中的政治：政治社會化的研究』（台北：桂冠圖書公司、1981年）、頁15。
- 李英明『中共研究方法論』（台北：揚智文化事業公司、1996年）、頁97。
- 宋任窮「按照革命化年輕化知識化專業化的方針建設好幹部隊伍」『人民日報』（北京）、1982年10月2日、第2版。
- 吳玉山「中國大陸經濟改革總體策略之研究」、發表於中國大陸研究方法與成果學術研討會（台北：政大國關中心暨中國大陸研究中心主辦、2003年4月1~2日）、頁5。
- 陳婕·李秀山「回顧美國終究的典範」朱雲漢·王紹光·B趙全勝主編『華人社會政治學本土化研究的理論與實踐』（台北：桂冠圖書公司、2002年）、頁129~130。
- 寇健文「政治繼承與共黨國家政權結構穩定性的比較研究」『問題與研究』第39卷第3期（2000年3月）、頁59。
- 張莉娟「我國民辦高校發展過程中的規章制度研究—北京美國英語語言學院案例分析」北京大學教育學院碩士論文（2003年）、頁58~59。
- 賴輝亮、郝瑞廷主編『中國共青團工作全書』（北京：紅旗出版社、1996年）、頁159~160。
- 羅成法「新的財政體制改革對廣東的影響」『黨校論壇』（北京）、總第62期（1994年1月）、頁23。
- “Suzhou: The New Frontier,” *Far Eastern Economic Review*, December 6, 2001, pp. 38~41.
- Chen-yuan Tung, “China’s Economic Leverage and Taiwan’s Security Concerns with Respect to Cross-Strait Economic Relations,” (Ph. D. dissertation, Johns Hopkins University, 2002), p. 25.
- Derrida, Jacques, *Of Grammatology*, trans. by Gayatri Chakravorty Spivak, corrected edition (Baltimore: Johns Hopkins University, 1997), p. 127.
- Domes, Jurgen, “Intra-the Party Conflict and the Development of Communist Rule in China,” presented for 4th Sino-American Conference on Mainland China (Taipei: Institute of International Relations, December 1215, 1974), p. 2.
- Lam, Willy, “Hu and Jiang Struggle for Primacy,” *China Brief*, July 1, 2003, pp. 2~3, http://www.jamestown.org/print/ewe_003_013_001.pdf.
- Lin, Jih-wen, “Two-Level Games Between Rival Regimes: Domestic Politics and the Remaking of Cross-Strait Relations,” *Issues & Studies*, Vol. 36, No. 6 (November/December 2000), pp. 1~26.
- Mitchell, Mark R., “The Ties That Won’t Bind,” *Time*, December 10, 2001, p. 43.
- Nathan, Andrew J. “Human Rights in Chinese Foreign Policy,” *The China Quarterly*, No. 139 (September 1994), pp. 622~643.
- New York Times*, December 18, 2003, <http://www.nytimes.com/2003/12/18/international/18FRAN.html?th>.
- Pomfret, John, “China Easing Way for Bush Visit; Invitations to Taiwanese Officials Among Good Faith Efforts,” *Washington Post*, January 25, 2002, p. A21.
- Rigger, Shelly, *Politics in Taiwan: Voting for Democracy* (New York: Routledge, 1999), p. 18.
- Schweller, Randall L., “Managing the Rise of Great Powers: History and Theory,” in Alastair Iain Johnston and Robert S. Ross eds., *Engaging China: The Management of an Emerging Power* (London: Routledge, 1999), pp. 1~31.
- Tabellini, Guido, “Europe Faces Fundamental Dilemma,” *Taipei Times*, March 2, 2002, p. 9.